

さあーカシミアの秋です。
UTOは、四半世紀を超えて次の四半世紀に向かいます。
今後もUTOカシミアのご愛顧をお願い申し上げます。

地球温暖化の影響なのでしょう。観測史上かつて無いとか、何十年ぶりの雨量や、高温等の自然現象が頻りに報道されています。
東京は今年、十月というのに木枯らし一写が吹きました。季節の移ろいや雨風の自然現象の幅が上にも下にも大ブレしているような気がします。その分、今年のカシミアシーズンには早くやって来ました。

念願だった海外展開がスタートしました。
イタリアはミラノの高級ファッション街、ブレラ地区あるブティックと、ニューヨークブルックリンのショールームです。



【好評！おうちで試着】

残念ながらUTOは実店舗がありません。
平日は東京南青山のショールームにお気軽にお越しください。ご案内していますが、そもそも東京が遠隔の方には送致をおかけしています。
そこで、今年の夏から「おうちで試着サービス」をはじめました。

ウェブサイトでご覧いただいた商品などを指定して頂き、「サイズや風合、色目など」をお手元で確認して頂けるサービスです。
周りを気にしないで好きな時間に「自宅で試着ができますので、お持ちの服と合わせてみる」とも可能で、お気軽に、お電話なり、メール等で相談ください。

【費用】 無料
【貸出点数】 3点まで
【貸出期間】 アイテム到着後一週間まで
【送料】 お客様UTOのお互いに元払い

★お守り頂きたいこと
かぶり等の商品はフアンデーションや髪が付かないようにフエイスカーを使用してください。
香水などの匂い移りが無いように注意してください。
タグなどの付属物は元通りにしてお返しください。等のごく常識的なことです。

★ご容赦ください
出来るだけご希望に沿えるように努力しますが、タイミングなどでサイズや色が無い場合があります。出来るだけ近い商品や色見本などで代用させて頂く場合がありますのでご了承ください。

【ショッピングサイト ヤフー、スタート】

10月より、ショッピングサイトのヤフー店をオープン



ンしました。

【青山は土曜日もやります！】

東京南青山の事務所ショールームは、平日だけオープンでしたが、十月から土曜日もおオープンすることにしました。平日はなかなか来れないという方、是非ご利用ください。

【イタリアのミラノに登場】

念願だった海外展開がスタート。
海外初のお店は、イタリアミラノの高級ブティック街ブレラ地区にある、イタネリスというメンズブティックでの展開です。

【ニューヨークのブルックリンで販売開始】

ニューヨークブルックリンで、J+DデザインというNPO法人が日本発商品を紹介するお店で販売を開始しました。

【青山・表参道境界】

UTOはこんな街から発信しています

旅の図書館

昔は大変お世話になりました

旅の図書館には、40年前ぐらい前の旅行屋時代に随分とお世話になりましたが、その頃は、東京駅八重洲口の鉄鋼ビルの地下にありました。

70年代は旅行の黎明期で、旅の情報はあまりにも少なく貴重でした。そんな中で雑誌の「旅」は重要な情報源でした。その「旅」の発行元である交通公社の編集の資料室を一般に開放したものだと思います。

一般の図書館や本屋に行っても一つのコーナーなどにしかない旅の本や資料が、ここに来ると館内一杯に揃っているのでもうワクワクでした。

今のように映像や写真がふんだんある時代ではなく、自分では到底買えない世界的な観光地の美しい写真集はまだ見れば世界を垣間見せてくれるものでした。そして一番の目的は地図でした。特にヨーロッパの地図はミシュランやハロワグ等の各国の詳しい地図が揃っていました。
当時、これらの外国の地図は丸巻の洋書コーナーで一冊3000円ぐらいする高価なものでした。当時の給料が5万円ぐらいでしたから、この地図を独り占めして何時間も見られるのはヨーロッパを旅している気分まで至福の時間でした。

お昼になると、日本橋の裏にある安い定食屋さ



んで昼食を摂って夕方までここで過ごすことは、国内の小旅行したような満足な時間でした。

その後、旅行屋からニット屋に転職して気持ちの余裕もなくなり旅の図書館に来る機会が無くなりました。

東京駅の大開発でそれまでの鉄鋼ビルが無くなることを知った時、「旅の図書館があったはずだ」と頭に浮かびましたが、すぐに頭から消えていきました。先月、メトロニュースという地下鉄の情報誌で会社のすぐ近くの青山1丁目にあることを知りました。

青山にまた旅の図書館はホンダの本社からちょっと入った処です。鉄鋼ビルの地下にあった昔に比べてガラスをふんだんに使った明るい建物です。スペースは狭くはなりましたが、昔と違うのは所蔵の資料はかなりのデジタルで収納されていることです。

これなら資料の劣化がないのでとつても良いと思います。検索するにしても、便利ですが、慣れないせいか画面を見ていると、書籍に比べると目が疲れます。
只一つ残念なのが、開館がウィークデイのみで土日休日が閉館なんです。土曜日だけでも開館してくれると本当に助かるのですが。

カシミア100% 配色縁取り 大判ストール



1312-3292 ￥43,200(税込)

大人気の天使のストールに額縁状の配色を施しました。
お好みのカラーの組み合わせでオーダーも承っております。
巻き方のニュアンスで次第で、様々な表情を奏しめるバイカラーのデザインが魅力です。
アレンジのしやすい、大判サイズです。

カシミア100% タートルネック ドレス



1112-1336 ￥78,840(税込)

ゆったりリラックスしたサイズ感が上品なタートルネックのワンピース。
首周りも暖かく、ロングブーツと相性のよい丈感でこれからの季節のコートインにぴったりです。

カシミア100% フルカーディガンジレ



6117-2010 ￥135,000(税)

最高級カシミアを贅沢に使用に、両袖幅みでしっかりと肉厚に仕上げました。エレガントなロング丈のフード付ベストです。いつものダウンベストをカシミアのベストに替えるだけで、上品なカジュアルスタイルを楽しめます

カシミアとニットの話 * (五十八)

成長する、UTOのカシミアニット

世界最高峰のカシミアを惜しげもなく

「UTOのカシミアセーターは柔らかいけど、しっかりしていますね」とよく言われて載ります。

正直、「ちつた」と思っています。

「柔らかいし、カシミア100%と表示はしているけど、ペラペラしてる」とか、「薄っぺらい」、「頼りない」とは絶対に言われたくないと思っています。

普通のウールの値段の10倍もするカシミア100%の原料は他の原料に比べて抜群に柔らかいのでほとんどの人がすぐにカシミアと解ります。そんな高価な原料なので何処のアパレルでもいかに安くして沢山売り上げるかは、いかに原料をセーブして作り上げるかが最大のミッションです。しかも、購入して頂くための店頭にあるときの風合が一番の勝負です。

店頭にあるときが一番柔らかいというのは販売する方からしたら当然です。売れるかどうかはその時に決まりますから。しかしUTOのセーターは高価なカシミアをしっかりと結んで編んでいます。

UTOのカシミアセーターは長年愛用して戴きたく極めてです。これはUTOが初めてカシミアを始めた時からのこだわりです。

お手に取って頂いたUTOのカシミアセーターは思ったよりフワリ感がないと感じられるかもしれません。UTOでは、むしろちつたかという「編みの度目」を揃えています。

UTOが企画する時、最高級の糸でしっかりと最高のもの作りをしたいので、製造する前に販売価格を決めることはありません。

天然素材で繊細なカシミアは着用したり洗濯するうちにどうしても劣化は否めません。お気に入りのセーターほど何度も着用したいものです。

そんな想定ですから、長く愛用してもらう為にUTOのカシミアセーターはつめ気味に編み込みしています。そして何度か着用して洗濯して戴くうちに柔らかい風合いになります。

想定して普通に着用してシーズン中3〜4回ぐらい手洗いで、3〜4年ぐらいたったころが一番風合いが良くふんわり感があるようにこだわっています。いわゆる馴染んでくるはずですが、もちろん着用頻度や洗濯などの度合いでの違いはありますが。

例外として、UTOの商品の中に「天使シリーズ」という、カシミアの風合いを最大限に生かしたロングセラーの商品があります。この商品は逆に通常の製品より度目を甘くするというよりゲージを下げてスカスカに編むことでもっとも軽く柔らかい編地を表現したものです。この羽毛のような軽さとふんわり感で天使という名前をつけてストールを展開しています。

着用していただいた皆さんから「肌に直接触れるところが想像以上の柔らかさで手放せなくなった」と好評を頂いています。

これは編みと縮絨を逆手にとった成功例だと思っています。

馴染みのお客様から、「UTOのセーターはしっかりとて、長い間もちからまだ着れるから、当分買わなくていいのよね」と嬉しくて、悩ましく。



初めてのブティック



35年以上も前になりますが、旅行屋から転職したニット屋になって、営業で婦人服のブティックに初めて行ったときのことは今でも忘れられません。

今はなくなりましたが、営業担当になって名古屋に出張したとき、その最初の店が十五屋さんという婦人服のブティックのことです。

名古屋は地下街がとて発達した街ですが、その一帯地にお店がありました。

九州の島原出身の私は、子供の頃でシゲシゲと自分の顔を見てると、後ろから頭をパンッと叩かれて、「男がナシネ」と、母親の手が飛んでくるという、買戻剛健が売りの土地柄の田舎育ち、もちろんそれまで婦人服というブティックに足を踏み込んだことはありませんでした。

婦人服店の前を通っていても気がおかしなく中の子を見ようと思いましたがありませんでした。こんなお店に入ると思うとさすがにくみみした。

今日は東京から仕事に来たんですからお店に入らなければ仕事になりません。お客様の来店が途切れるのを待ちますが、お客様が途切れることは無いようです。何度かお店の前を行ったり来たりして、意を決して中に入りました。

店長さんらしき男性に向かって、「アノー、スマセン」と声をかけると、「ア！こちです！」とレジを指差さされました。

今朝から調子悪いんですよ！訝しげにレジを見ている私を見て、「NCRさんでしょ！」

店長さんは調子の悪いレジを修理に来てくれたNCRの人だと思ったそうです。フアッション屋にしては服装もタサイし、普通の勤め人風の格好で、「アノー、スマセン」と声をかけたのが誤解の元だったそうです。

「イエ、アノー、ニットのレ・アルと申します」「エエ！ニットのレ・アルさん？」

「ハイ、ハイ！」

なんと間抜けな営業マンでしょう！お店に入ってきた時、店長さんは銀行の人かと思ったのですが、調子の悪いレジのことを本部に連絡したところだったので、てっきりNCRの人だと思われたそうです。

それほど私はフアッションには違和感があったようです。笑い話のような、今では考えられないことですが、ニット屋はこんなスタイルでした。

世界のホテルを旅する(五十九)

元 旅行屋のお勧め 日光 栃木

日光金谷ホテル

海外からのお客様が1千万人を越すことが長年の悲願でしたがなかなか達成することが出来ませんでした。2012年以降訪日外国人が急速に増え2千万人を越える勢いで、インバウンドという旅行業界用語が普通になってきました。

その、インバウンドのお客様を泊めたことで出来た日本で最初のリゾートホテルが今回の日光金谷ホテルです。切っ掛けは、ヘボンさんというアメリカ人で、「和英辞典」を作り、私たちが使っているヘボン式ローマ字を教えたくれたあの人です。金谷ホテルというより日本のホテル史にとっても重要な人物です。

1872年、長く韓国で閉ざされていた日本に布教で来日していたヘボンさんが日光東照宮を見るために訪れて泊まることに困っていたヘボンさんを金谷善一郎が泊めたことが切っ掛けで、外国人に部屋を提供することをヘボンさんに勧められて始めたのがこの日光金谷ホテルの始まりだといわれています。

その後1878年、イギリスの女性探検家のイザベラバードがヘボンさんの紹介で宿泊した時の様子が「日本輿地紀行」という本に書かれています。当時は金谷カッタージンと呼ばれていて、彼女がこの滞在記事を書いたこと、これが金谷ホテルの大きな宣伝になったようです。ここは、今の登録有形文化財で大事に保存されています。

学生の頃からクラシックホテルが好きで、機会を作っていたらクラシックホテルに泊まりました。日本最初のリゾートホテルのこの金谷ホテルは勉強と称して随分前に二回ほど訪れたことがありますがなかなか泊まるチャンスがありませんでした。

もちろん今回は、金谷ホテルに泊まり当時の雰囲気味わいたいということが目的でしたが、金谷ホテルの元であるカッタージンを見学することが一番の楽しみでした。丁寧なガイドさんのお陰で、イザベラバードが滞在していた部屋や通訳案内所に伊藤鶴吉の部屋も詳しく案内してもらい、長年の希望が叶いました。

クラシックホテルに泊まることの醍醐味は、古きよき時代に自分を置くことだと思えますが、たまに訪れる我々はノスタルジーを感じて素敵な時間を過ごさせてもらいますが、ホテル側は建物やサービスなどを維持することは大変なことだと思えます。建築費も維持費も新しい建物よりずっとかかることは間違いないでしょう。そんなハンディを負いながらも経営を続けることは並大抵のことではないでしょう。

経済的な応援は出来ませんが、泊まったり食事したりして、気持ちの面で応援したいと思っています。

